

研究主題 一人一人の子供が自ら深い学びを実現していく体育学習
 ～研究の視点 一人一人の子供の自己評価の力を高める手立ての工夫～

東京都小学校体育研究会について

東京都における小学校の体育研究の振興を図ることを目的とした研究団体であり、小学校体育科における今日的な教育課題について、授業実践をもとに検証を行い、研究成果の普及を行っている。

研究主題（令和2～4年度）

- 体育科における「個に応じた指導の充実」をより一層推進するためには、与えられた課題に子供たちが同様に取り組む一斉一律の課題解決的な学習を改善し、子供が自ら学習課題を見だし、その解決に主体的・協働的に学習活動に取り組めるようにすることが必要であると考えた。
- このような学習活動を繰り返すことにより、子供が自ら「深い学び」を実現していけるようにするための体育科の学習指導の在り方を追究することを旨とし、本研究主題を設定した。

研究の視点（令和4年度）

- 令和2・3年度の研究から、子供が主体的・協働的な学びを繰り返し、自ら深い学びを実現していけるようにするためには、子供が自らの学習課題の解決に取り組む過程において、様々な場面でやっている自己評価活動の充実を図ることが必要であると考えた。
- そこで、子供の「自己評価の力」を高める手立てを工夫することを、本年度の研究の視点とした。

研究の全体構想図



研究の方法

- ① 10の研究領域部会による年間を通した研究活動の実施
- ② 各研究領域部会による年2回の実証授業の実施
- ③ 夏季合同研究会（8月）による研究協議の実施
- ④ 月1回開催の正副部長会における情報共有と研修の実施
- ⑤ 研究発表大会の実施、研究紀要や会報の発行による研究成果の普及

研究の内容（R4年度）

令和2・3年度の研究成果

令和4年度の研究

- 「自己評価の力」を高める手だてを工夫する。
 - ・子供たちは、運動や学習に取り組む中で、今もっている力で「自己評価」を行っている。一人一人がもつ「自己評価をする力」は、それまでの学習経験等によって異なり、自己評価の場面で活用・発揮される力も異なっている。この「一人一人がもつ自己評価の力」を高めるための手立てを工夫する。
- 手だてを工夫したことによる子供一人一人の「自己評価の力」の高まりを、授業を通した子供の姿から把握する。
- 「自己評価の力」の高まりが、子供の「深い学び」の実現につながったかどうかを、子供の姿を通して検証する。

研究のまとめ

研究の成果と課題

- 子供が自ら深い学びを実現していくための体育学習の在り方について、次の視点から提言する。（成果）
 - ・子供が自ら深い学びを実現していくための学習過程
 - ・子供が自ら学習課題を見いだすための手だて
 - ・子供が学習課題を解決していくための手だて
 - ・子供と運動（課題）との出会い ・自己評価（ ）は保健領域
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る視点から、さらなる授業改善を推進していくことが課題である。

今後の予定

- 令和4年度東京都小学校体育研究会 研究発表大会
 - 令和5年2月17日（金）午後1時10分～午後4時45分
 - 区部会場：江戸川区立新堀小学校
 - 多摩地区会場：連雀学園三鷹市立第六小学校

<連絡先>

| 団体名 | | 東京都小学校体育研究会 |
|-----|-----|--------------|
| 代表者 | 所属 | 大田区立田園調布小学校 |
| | 職氏名 | 校長 本田 幸彦 |
| | 連絡先 | 03-3721-8907 |
| 事務局 | 所属 | 日野市立日野第八小学校 |
| | 職氏名 | 校長 船山 徹 |
| | 連絡先 | 042-591-2411 |